

■ 丹波生きづらさネット 大槻さん

ネクステという会社で障害福祉サービスもしています。

私は明石市の泉市長と同じ、社会福祉士という資格を持っています。

今日はそうしたソーシャルワーカーとしての視点で感じることを言わせていただけたらと思っています。

まず1つ目に市長のキャッチフレーズである「帰ってこいよ」という言葉についてです。

市内にいる私たちは市長のキャラクターを理解していますが、市外へ出ている人からすると、「帰ってこいよ」という言葉がどうしても上から目線に思えてしまうということを周りからは聞いています。あくまでも一部の人ではありますが参考にしていただけたらと思います。

次に、Iターンの方についてです。市内でもすごく活躍されてる方が多く、大事な存在であるというふうに思っています。

私の職種上、出会ったり見聞きするIターンの人は孤独であったり、孤立していたり、生きづらさや困りごとを抱えていたりします。そういった方の支援を、今まで以上に力を入れていたきたいです。

2つ目は、「事業事務評価」についてです。

丹波市のホームページに掲載されており、私もよく見るのですが、個人的な印象としては甘くもあり、厳しくもありといった感じです。これでA評価なのかとを感じるものがあったり、よく頑張っているのにBやCなのかと感じたりもします。

3つ目は地域福祉計画の進捗管理についてです。

令和3年度から、地域福祉計画第三期が始まっています。障害福祉計画や介護保険事業計画は、計画の進捗状況を確認する会議があります。生涯学習基本計画について、学びの里づくり協議会で進捗管理されています。こうした計画の一番大元になる地域福祉計画については、進捗を確認したり、協議する会議や協議会がないように思います。

現在、ヤングケアラーが話題になっていますが、令和3年度からの会議の中にそういった文言が一つも入っていません。こうした市民ニーズをとらえ、適宜、計画を修正することは大事だと思います。

4つ目は、ネットワーク機能についてです。

例えば社会福祉法人が実施する「ほっとかへんネット」というものがありますが、どの程度ネットワークをしっかりと決めてるできているのかについてあまり伝わってこない印象です。

障がい福祉課では「まんがいちネット」を実施していますが、コロナの第7波の中で、機能はしているのかというような印象を受けています。

ぜひ市の職員や、僕らがよく接する、丹波市社会福祉協議会の職員の中に、求心力やリーダーシップのある方が出てきていただくのを僕たちのような民間のものは待っています。

何事も「無難」にできれば一番良いが、「有難」というか、難があった方が、市民の方のためにはそれが、「有難う」に繋がっていく。これはある芸人さんの話のパクリですが、そんなふうに思っています。

次に、天下り、僕は太りに結構だと思います。市役所のOBの方もたくさんいらっしゃいますが、天下ったからには、下った先で働いている現役世代が仕事に魅力を持って生き生きと働ける、そういう職場になるために尽力していただきたいと思っています。

最後に、スクールソーシャルワーカーについてです。

スクールソーシャルワーカーという職があります。丹波市内では校長先生のOB2人のみの設置となっており、他市に比べても丹波市は少ないです。

私もスクールソーシャルワーカーの研修を受けて修了書を貰っています。教育部門に関わってきた方は教育分野の中でしか物事を見ることができないということもあります。社会福祉士資格を持つスクールソーシャルワーカーの配置もぜひ取り組んで欲しいと思います。

これからは市と、私たち民間や市民とが「会話」ではなく「対話」できるように、ぜひよろしくをお願いしたいと思います。

■市長回答

まずは、「帰ってこいよ」という言葉が上から目線に聞こえるという点についてです。

私の言葉足らずで、「帰ってこいよ」という言葉だけが前に出ていますが、本当の言葉は、「我が子に誇りを持って帰ってこいよといえるまちをつくろう」です。

「帰ってこいよといえるまちをつくろう」という意味で、はじめは言い出したわけです。

それがだんだん短縮され、「帰ってこいよ」という言葉だけが目立っているのも、ちょっと上から目線に聞こえたかもしれません。本来は、自分の子供に帰ってこいよと、言うことができないような街では、市外の人にも来てほしいとは言えません。

なので、「帰ってこいよ」と自分の子どもに言えるようなまちづくりをしましょうというのが、本来の意味であることをご理解願いたいと思います。

私は職員の皆さんがしっかり働かないと、私はもともと商売をしていました。親方がどんなに頑張って働いても会社は成り立ちません。丹波市役所には約1000人の職員がいます。この1000人が1000人分働けるか、800人分しか働けないのか、1200人分働くことができるのか、ここが分かれ目だと私は思います。

私は、職員の皆さんがしっかり働けるモチベーションを高く持って働ける人を作るそういうところを作るのがトップの役目だというふうに思ってます。私1人が旗振りするんじゃなくて、みんなやっていきたいと思っています。

■市回答/社会福祉課長 森本

地域福祉計画は令和3年の3月に策定して以降、進捗管理は、令和3年度から現在も行っています。介護保険事業計画、障害福祉計画とともに、それと同様な形を持って行っています。

今年はまだ実施はできていませんが、令和3年度から、定期的に年2回という形で進捗管理を行っています。開催状況については、ホームページや、防災行政無線での情報発信を行っていますので、またご都合のつく際にはお越しいただきたいと思います。

次に、地域福祉計画の見立てについてです。

おっしゃられた通り、最近はやングケアラーについての話もたくさん出てきており、当然ながら計画に盛り込んでいかなければならないと考えております。そういうことも含めて、今後進捗管理や更新に合わせて、盛り込んでいきたいなと思っております。

また、社会福祉法人のネットワーク、よろずおせっかい相談所など、そのあたりの相談の体制についても再検討し、声にならない声が、私達職員のところまでしっかり届いているのかについても考えなければなりません。さらには声が届くような仕組み作りを作っていくかといけないと考えています。

■市回答/教育部長 藤原

スクールソーシャルワーカー、先ほど大槻さんがおっしゃいましたように、丹波市の場合は、元校長先生の2人にお世話になっています。3、4年前の初めてスクールソーシャルワーカーを導入するというときに、社会福祉士の方を探していましたが、なかなか選考ができなかったという背景があり、当時は致し方なく校長先生にお世話になりました。

近い将来には社会福祉士の資格を持った方や学校のことを理解している元校長先生というような、そういう形の2人になればいいなということを思ってるのが現状です。

■一般応募 松本さん

氷上町の松本です。

私は、「このまちに暮らしている私たちが安全で安心して心豊かにいられること」「男女ともに発言ができ、子供たちが元気に走り回り、高齢者が生き生きと暮らしている」そんな地域に人が集まってくると思っています。そのために、3つの提案をいたします。

1つ目、自治会の役員や自治会の中より小さな組織、〇〇系の協力員といったようなところからで良いので、女性の起用を促す市からの提案について。

2つ目、高齢者の生涯学習支援のため、送迎バスの利用ができる活動の企画について。

3つ目、花や緑あふれるまちづくりのために、現在行われてる資材の提供に加えて、作業や作業委託に対する、補助金制度について

以上3点です。

まず、1つ目についてですが、私の地域の自治会では、運営役員の中に女性が2人、毎年参加しております。私も数年前に役をいただきました。

私は、地域をより暮らしやすくするために、意見を出して協議をし、決めていく、そんな場に女性や、子育て世代など多様な人々が参加して発言することはとても大切だと思っています。実際、私のような女性や子育て世代などそれぞれの目線で疑問に思うことを気軽に発言できる機会になっています。それによって、効率化されたり、住みやすく、気持ちよく活動できるようになったこともあります。小さなコミュニティから暮らしやすくするために、女性が自治会に参画する。役員が難しい場合は、補助制度とか、補助役員とか協力員などのそのポジションづくり、そんなことからでも参加できる女性が増えて欲しいと思っています。

2つ目は、生涯学習についてです。

趣味など活動の場を持つ高齢者は、生き生きと自信を持って過ごされています。

生涯学習は、人を活動的かつ元気にしてくれると私は思っています。

しかし、運転免許証の返納などで交通手段がなくなったことにより、活動に参加できなくなってしまった方を多く見してきました。高齢になると、乗り合いで助け合うことさえ不安が伴います。そこで、1年に数回、送迎バスが、利用できる生涯学習の機会を作っていたきたいと思っています。

私は高齢者を対象とした講習会をしています。来られなくなった途端に体調を崩されたという話をよく聞きます。高齢者が生き生きと元気に暮らしている地域は、とても魅力的だと思います。

3つ目の、花や緑あふれるまちづくりについてです。

地域に手入れされた花壇や緑地があることは、景観も良く、気持ちを豊かにしてくれます。

通学路の花壇では、子どもたちが葉っぱなんかを触っていたり、親子連れが作業に加わって、新しい出会いの場ができています。

地域の花壇の手入れは、綺麗にするだけではなくて、地域の方が集まり、話をするコミュニティができる、相談ができる。交流ができます。これは、地域づくりだと思っています。

近年、コミュニティ花壇の管理をされている方の高齢化が進み、夏は熱中症の心配から、作業回数が減少し、作業が大変になってきています。

そこで、この大切な場所を失わないために、手入れしやすい花壇へのリニューアル費用や、木の剪定、そういうことに、業者やシルバー人材センターに、委託する費用など、一部でも良いので、補助金制度を作って欲しいです。

現在、丹波市では緑化資材の提供をしていただき、大変感謝しています。

■市長回答

地域コミュニティを充実させるというのを一番主眼に置いてるということで、私と同じご意見です。

私が春日部地域で地域づくりの委員をしていた当時は、地域でランチやカフェといったイベントを企画していましたし、女性にたくさん協力してもらって実施していました。半分女性にし

ようということで、地域づくり会は半分以上女性になっています。そのあと PTA の役員を受けている女性の方にもたくさん来ていただいて、ずっとやってきていました。今はコロナでカフェもランチも休んでいますけども、私たちの地域は「子どもを育てるのは地域だ」というふう

にスローガンを張っています。

松本さんがおっしゃるように地域が元気にならないと、地域づくりできないし、子どもたちも元気にやっていけないと思っています。

それには、私たちがイニシアチブをとって、地域づくりしていくんですけども、やはり高齢者の人にも一度手伝ってもらわなきゃいけないというのがありますし、お客さんとして来てもらわないといけません。

そういう意味でも、高齢者の人も、一緒にやっていくというふうに思ってます。

今いただいた具体的な、そうやって各自分たちが女性を引っ張らないとあかんと思うんです。市から声をかけるのには限界があり、やる人が本当にみんなでやろうよということにならないと駄目だと思います。

実際私たちもやってきましたので、各地域でそういう話ができればやっていけるなというふうに思ってます。

■市回答/まちづくり部長 井尻

自治会活動についてはこれまで、松本さんがおっしゃった通り、役員を受けられる世代の方が、いろいろな重責といたしますか、地域の自治活動を担っていただいていたというような経過がございます。多くの、参加が得られるような形をとりながら、いろんな意見が、その場で自由闊達に話ができるような、地域運営というのはこれからの、自治会活動にも求められるものと思っています。

とりわけ、人口減少や高齢化が進む中で、子どもたちを大事に育てていく地域にするためには、もちろん子どもや親の意見も聞きながら、地域で子育てを進めていくということが重要になってくると思っています。

地域づくりの形のつくり方については、松本さんと同じことをまちづくり部でも考えています。自由に、意見が言えるような地域をつくれるように、自治会の役員さんと一緒に考えていきたいというふうに思っております。

次に生涯学習の関係についてです。

高齢者の方は地域に活かすことができる知恵をたくさん持っておられます。

学ばれた、成果を地域に生かすということが非常に大事だと思っています。それをしっかりと地域に還元していただくためにも、その活動続けていただけるようなことをサポートすることが非常に大事だと思っています。

しかし、各場所に集まって、学習を続けるということについては、地域性もあり交通の便であるとか、集まりにくいような事情もございます。このことについては、大事な視点だと思っていますので、まちづくり部担当課の方におきまして、その学習の機会の方法や自宅でもしっか

りと学習していただけるような方法も、ITなどを活用した方法なども作りながら、交流ができるような場所を持てるように、交通手段についても検討していきたいと思っています。

■市回答/建設部長 里

既存の花壇のリニューアルに関する補助金のご提案だったと思います。

まだ、そういったことのご要望があるということで、県などの関係機関に確認しながら、そういった補助金ができるかどうか検討して参りたいと思います。また維持管理等お世話になりますが、よろしくお願ひしたいと思っています。

■読み聞かせグループ「たからばこ」 大木さん

提案を三つ申し上げます。

1つ目は、私は図書館で読み聞かせグループ、「たからばこ」の活動を発足当時からしています。絵本で楽しい親子時間を作って欲しいと願ったり、メンバーのスキルアップであったり、今は大人のためのおはなし会も大切ですし、させてもらってますので、市から支援をいただき、図書館と宝箱ともに協力して、読み聞かせの楽しい講座をして欲しいと願います。

二つ目は、オーガニック給食に向けて具体的な、取り組みをして欲しいと子育て世代の方から聞いています。お願い事が通ったので、第三次計画に、オーガニック食材を積極的に取り入れる文言を入れて欲しいです。請願が全会一致で通ったので、市として、農家や栄養士と連携を図り、仕組み化して欲しいと思います。国や県、世界でもSDGsの視点からオーガニックを普及させたいと思っておられるようです。何卒、よろしくお願ひいたします。

子どもは食べることで体が作られます。今はアレルギーを持つ人も多いので、オーガニックにこだわっていただきたいと思っています。

三つ目です。若いお母様から、聞かせてもらったのですが、今コロナ禍でマスクを事実上強制され続けた結果、先生方が、この夏、熱中症になるから、マスクを外すようにと指導しても、外してくれないという声が先生方から上がっているようでございます。

これまで、さんざん恐怖をあおっていて、いきなり外せと言われても、怖いと思う子もいますし、そもそも先生方や周りの大人が、登下校中なども外していないのに、子どもだけ外して、大人は感染予防するという矛盾に、理解が苦しむ子もいるのではないかと思います。

そこで、マスクについて1度、目を通していただきたい大人向けの絵本（グッドアース社出版）があります。この本は子供目線で描かれています。この本の最後のまとめには、「国は、マスクは強制や、義務ではなく、お願ひ推奨を伝え続けています。経験したことのない事態に、お母さん、お父さんも我が子を守るために必死でした。しかし、状況は変化しています。文中にあるように、熱中症対策、マスクによって起こりうる身体的な問題が心配されています。我が子を大切に思う気持ちは、どんな立場の人も同じです。

今後、私たちは、人が言ってくれるのを待つのか。誰かがやってくれるのを待つのか。変化をいつまでも待つのではなく、冷たい目線から温かい目線を持ち、自ら優しさを差し出すことで、

少しずつ空気を変えていける。国や学校から届くお便りや、たった一言では、子供たちの心はついてこられない。長年かかった分、社会全体の景色とともに、安心して、元の生活に戻れるサポートを必要と思います。今、自分で考えを持ち、行動に移せるのは、大人たちです」と書かれています。こんな本がありますので、市内の教育関係の方々や、また保護者の方にも読んでいただきたいと思います。提言させていただきました。

ちなみにこの絵本は、インターネットから申し込みができます。小さい本なので送料も安いです。本は無料です。印刷代はカンパを募っているそうです。

■市長回答

まずはオーガニック給食についてです。1年間で、子供たちはおよそ1100食ほどのご飯を食べます。その中で、学校で食べる給食は200食以下で160とか180ぐらいだと思います。その給食をね、オーガニックにしてくださいと。あなたの家ではインスタント食品は食べさせてませんね、まさかと、言いましたら黙っておられました。

子供たちに食材オーガニックの給食をするということは大事だし、大人が子どもたちに安全安心なものを食べさすというのは、しっかりやっていかなきゃいけないことだと思います。

ただ、家庭の中がほぼ8割から、食べさすので家庭がしっかりやってるか、本当はそこからやらないとね、学校だけの給食をやりなさいやりなさい。

ちょっと試算してみると1食、何千円というお金になります。

本当に全部をオーガニックしようと思ったら、果たして1食何千円になっても、そんな父兄の方はそれでよろしいと言って、オーガニック給食してくださいと言われるのかな？というのも心配でちょっと聞いてみしたら、いや、うちはそんなこと言いませんという親もたくさんおられます。

良いことではあるが、大変難しい問題だと思いますので、やっぱり合意形成して考えて参ります。

現在、試算等を行っていますので少し待っていてください。

2つ目のマスクについては、コロナが少し落ち着いてきた時に、私も会合に行くたびに、会場の皆さんにマスクをやめましょうと言って僕は外して、マスク外すことを推奨してきました。ただし、この第7波の様子を見ていると、やはり市役所として市長として、それをずっと推奨していくのがよいのかどうか。それはちょっとある程度問題があって、やっぱり国や県の指示も、受けなければなりませんので、今は積極的には言うのをやめます。ただし、屋外ではもう外してくださいよ。熱中症の心配の方が大きいですよということは言ってます。

例えばワクチンでもね、今は子どもたちにはワクチン接種させないという保護者も大勢いるので、その人に強制することはなかなか難しいです。だからやっぱり、ワクチン接種もできますよ、マスクは外してもいいですよ、ただし自分で判断してくださいね。というふうにしか、一方的には言えないというところはご理解願いたいと思います。

■市回答/教育部長 藤原

学校では2学期が始まり、運動会、体育祭の練習も始まって参ります。

熱中症対策として、動いてる間はマスクを外すというように子どもたちに声掛けていているという状況です。ただ、コロナ禍で、子どもたちもなかなかマスクを外せないという状況が生まれていることも学校の方から聞いています。その辺りしっかりと教育委員会として学校と一緒に適切な対応をしたいと思っています。

■ 移住者・移住相談有限責任事業組合 井口さん

僕は、丹波市の移住相談窓口の業務を7年ほどしています。当初から思ってるのは、先ほど市長もおっしゃられたみたいに、帰ってこいよって、言えるまちづくりということで、やっぱ地元の人たち自身がこのまちにすごい満足し、とても幸せに暮らしていないと、市外の人にもこっち来いよとか、自分の子供が出ていった人たちに帰ってこいって、よう言わんやんっていうお話だったと思うんですけど、本当に思うところです。市外の人がこっちに来るときに、中の人たちが満足してない先で、そこに移住してくださいとかって言えないわけですね。この窓口としても、なかの人が幸せにどれだけ暮らしていけるかっていうのは、やっぱすごい重要なことだと数年前から思っています。

この移住相談の窓口の中でも、市外の人が丹波市にどんどん移住してくる姿を実現しようと思ったときも、結局中の人がどれだけ幸せに暮らしていけるかと、みたいなのがやっぱりすごい重要になるんだなというのをずっと思っています。

今回提案が三つあります。

まず一つ目は小学校や中学校の統合についてです。

これから先のことを考えても、やっぱりどんどん通学の問題が難しくなってくると思います。この前、三田に出かけたときに、小学生とか中学生とか高校生の子どもたちがみんな、電動補助付きの自転車乗ってたのを見かけて、丹波市の市内の今小学校の統合とかで、通学の問題でいろいろ出てきてると思うんですけど、かたや地元の子育て世代のお父さんお母さんからよく聞く話ですが、学校指定の自転車が高すぎて買いたくないとかっていう話とかもね、よく聞いたりします。

そこで、例えばもうこれから小学校の統廃合などでバスを走らせる予算取りもなかなか難しいとか、いう場面も出てくると思いますが、そんなときに、学校指定とかで、ある意味この自転車乗ってくださいみたいなことで用意される自転車が、その電動補助付きの自転車であったりとか、それこそ高校に限っては、原チャが乗れるようになったりとかして自分の足で高校まで通えるような体制みたいなものをつくれたりとかすると、結局そのどこに住んでても、地元の中学校高校に通える状況になるというふうなことがあって、もちろん法的なところとか、高校は全部県立だからとか難しいところあるかと思うんですけど、それでも何かこう実現できるような、ポイントは無いのかなと思っています。

次に2点目、企業誘致の話です。

丹波市には企業誘致の係があり、以前から積極的にやってらっしゃると思うんですけど、なかなか本社ごと移転してくるケースは難しく、一部または工場の部分だけがということが結構あったりすると思います。私の事務所が柏原にある関係で柏原を車で走っていると最近すごいアパート建っているなど思うんですね。移住相談でも、昔から物件が足りてないっていう状況ってすごい続いています。企業誘致もいいんですけど、その住宅を建てるデベロッパーの誘致ってもっと推進できないのかなというのは思っています。

市がまとめた土地を用意して、そこに例えばマンションなりアパートなりを開発してもらうようなところを、もっと推進できると結局、アパートとかって、地元の人が、結構ニーズ高くて、地元民で埋まったりするので、I ターンがそれこそ入る余裕とかもなかったりしますから、そういうふうなデベロッパーの誘致みたいなのところも動いて欲しいと思います。

最後に 3 点目は、今、市内の人たちもこぞって柏原、氷上に集中的に引っ越してきてます。しかし、市外から来る人は田舎暮らしに憧れるので結構境界の部分に出たりとかして、この真ん中の都市化がどんどん進んできてますよね。この流れって多分当面変わらないなと思っていて、じゃあその例えば山南とか青垣とか市島とかって、これから空いてきたりする家や土地をどのように活用するのかという話はあると思うんです。その中で、移住相談のこの窓口である丹波の仕事っていう地元企業の話って、仕事の機会をですね、最近その企業さんが、事務課っていう動きがあるなどというふうに見てたりするんです。なので周辺部分をですね、なんかもうちょっと何か地元の企業さんが新しく事業したり、農業分野を新しく開発して進めていったりとかっていうふうな、何か事業用途として活用できるみたいなのを、もうちょっと用意してもいいのかなみたいなことを思います。

■市長回答

まずは 1 つ目の小学校の統合に伴う通学方法について。

これは大事なことだと認識しています。おっしゃる通り自分の力で通学できることが本来だと思います。その電動自転車というのは初めて、聞いた言葉で、面白いなとは思いました。ただ、研究してからでないと実践についてはすぐには言えないことかなと思います。ただ、高校の原チャリという話は僕たちの学生の頃からありました。青垣の方から 1 時間半かけて通学する子は、近所の家にバイク隠して通学していたということも実際あります。本当に難しい問題ですが、今のところ、例えば山南では、ただのスクールバスじゃなくて一般の人も使える公共交通を使おうということで、皆、合意いただいて、なかなか便利になるんじゃないかと思います。市島の方も今そういう動きの中で、スクールバスと、どちらにしようかみたいな話は今やってますが、公共交通ねちょっとスクールバスの方がなんか安全というイメージを持っている方が多いようですが、私東京に大学行っと思ったので、幼稚園の子でも、山手線に乗ってバスに乗って通学してるのを見えています。ですから公共交通で通学するのは何にも難しいことじゃないし危ないことではないので、そういう方向に行けばいいかなと思って何とか公共交通を、充実させたいなというふうには思ってます。

2点目の企業誘致についてです。私も地元の企業の人をよく知ってるので、議員さんもね、何か言うたら企業誘致言われるんやけども、丹波市では人がいないんですよ。

実際、春日町のパナソニックなんかでも毎日50人の人を大阪から三田まで電車で集めてきて、そこから直通バスで集めてます。

工場や企業誘致と言う前に、人がいないですから井口くん言われたように、住宅のデベロッパーからそういうのを引っ張ってきてとにかく住めるところを作って、人を呼ぶというのはその通りで、僕もそれはずっと思ってます。

今、行っている戦略的ヒアリングでは、丹波市のこういう事業をしませんかというのを各課から出してもらってる中で、まさにその住宅のデベロッパー、青垣のこういうところがありますと、ここに造成して、宅地を作って売り出したらどうですかという案を課から持ってきてくれました。そこら辺は市は井口さんと同じ考えです。それから特に柏原氷上に集まって山南青垣が無いじゃないか。そのことを含んで、青垣のここ埋めたらどうやというような話が、実際出ていたわけです。それを、市としてもやっぱ同じことを考えてるので、特に山南・青垣の場合は、今の過疎のね、地域になりましたのでそういう辺も考えながら進めていきたい。

ただ、やはり市がそれを指導するのはなかなか難しい。

民間のデベロッパーは、電話してきたら、それを一生懸命早くできるように、手続き早くできるように、協力するということはできるけども、こっちからここを埋めて作ってやということとはなかなか言えないので、こういうことができますよというようなことで、宣伝していきたいし、今の柏原の駅裏、県の方が塩漬けの土地ようさん持ってます。あそこはなかなか難しい土地やと思うけども、今、県民局長に私の提案としてあそこに住宅街をこしらえましょうということを、県民局長に提案します。これは県の土地やからね、今、井口くんが考えたことと同じことを私も考えてます。そういうところで提案していきたいと思います。市の単独事業では厳しいので、いろいろと協力を願いながら、やっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

■ 丹波市地域公共交通活性化協議会 北川さん

丹波市地域公共交通活性化協議会という肩書きから今日はお話をさせていただきます。

あまり皆さんに知られていない会ではありますが、公共交通を活性化させるための取り組みをするもので、実はもう10数年ぐらいやっています。丹波市には、鉄道、路線バスがあり、これらは一般的に基幹交通と言います。また、デマンドタクシーというのがありますが、これは生活交通という分野のものになっているんじゃないかと思います。

全体的に見て、最適な公共交通についていつも考えている、そういう会でございます。

今日の皆さんのお話の中にも、交通や移動の話があったかと思います。少し紹介させていただきますと、バス路線、実はですね、丹波市、かなり改変・再編させていただきましてね、丹波医療センターができましたから、JRで柏原駅とか石生駅とかですねそこを中心に、路線バスを再編しました。おかげさまで利用促進ができて、利用者も増えています。

そうした相乗効果もあり、青垣地域ではこれからバスの延伸といった話になってきましたし、学生の通学手段としてですね路線バス、ちょっと丹波市のご協力のおかげもあり、利用促進かなり進み、利用者が増えてきました。

また、デマンド交通についても、以前は病院に行く利用がすごく多かったが、今では買い物に行くための手段になっているのが一番です。生活スタイルも大分ですね高齢の人もですね、乗ってくる人はずっと乗ってくれますから、すごく生活が継続しやすくなった。

移動や交通を整備すると、みんなの生活でこんなに変わるんだと、最近改めて感じています。最近 JR も、市内で ICOCA が使えるようになりました。その辺もですね、交通系の IC カードで、いろんな生活がしやすくなったりしています。

丹波市でも、ICOCA を配布して、暮らしやすさとか、生活のしやすさとかそういうところを変えていこうというねそういう姿勢がすごくあるんじゃないかと思ってる、とても魅力的で市民が暮らしやすい、まちづくりになっていると思います。

これからも、住み慣れた地域に住み続けられるのは、生活スタイルを実現するには移動や交通は大事です。これからも、公共交通中心に、いろいろ考えていきたいというふうには思っています。

さてそれぞれですね、少し私の方から何年かやっててですね課題かなと思ってるところを少し上げていきたいと思います。

一つ目は公共交通について、知識、関心のある人が少ないかなという点についてです。

皆さんは普段車で移動されてますから、バスってどうやって乗ったらいい、どんなバスがあるんだとか、ワンループのあるらしいけどもどうやって乗ることができるか、そういうのね実はね、ご高齢の人でも知らないですし、親世代でも、あんまり知らないのじゃないかなというふうには思うんで、もっとね公共交通っていうのはどういう乗りものかっていうのをね、ぜひ知っていただきたいっていうのがあります。これは活性化協議会でもね、いろいろ配布や「てくてく丹波」などで、皆さんご存知だと思いますけれどもね、もう少し乗ってもらえるようなものが欲しいと思っております。それから活性化協議会なんてやってますね。やはりまちづくりとの連動がすごく大事だと最近感じています。

きっかけは丹波医療センターができて、交通の再編とかがあったんですけども、これから丹波もね、例えば先ほどもし住宅がいろいろできたら、当然移動のニーズがありますし、改めてこういう活動を始めましたっていうところがあると、人が集まってくるわけですから、そういうところなんかでも、やっぱりっていうふうな話があると思うんです。ですから市の中で、やっぱこういうことをこれからやってって、ニーズも増えてくるだろうから、活性化協議会の方でも考えてくださいというふうな、流れも作らなきゃいけないなと思ってます。

「まちづくり」とよく言いますが、まちは生き物ですから、すぐにニーズや手段とかも変わる可能性がありますので、そういうところには迅速丁寧に、なるべくこっちもできればいいですし、市とも連携しながらね、もっとやっていかないといけないのかなと思っています。

最後に三つ目です。考え方がねやっぱり大分変わってくんじゃないかと思うんです。

特に今はアフターコロナやポストコロナ、ウィズコロナとか言っていますがけれども、若い人も考え方はすごく変わってきますし、丹波市の持つ課題もあると思うんですね。

例えば空き家が増えてきたとか、観光をもっとふやさなきゃいけないとかね。

そういうところなんかにも移動交通の問題で、貢献できることがあるんだったら、まわしていきたくと思いますし、丹波市もやっぱり自給自足できる生活すごく魅力があると思いますんでね。例えば作ったものを運ぶ、貨客混載とかね、そんなのあるんですよ。ですから交通問題なんかでも、そういうところに貢献できるかなと思ってます。

■市長回答

北川さんには平成 21 年 4 月に丹波市地域公共交通活性化協議会が発足して以来、一貫して会長をお世話になっておりまして、丹波市の公共交通の維持発展にご尽力いただき、本当にありがとうございます。

特に今年度は、利便性と継続性のある公共交通サービスを目指した丹波市地域公共交通計画の策定をお世話になりますが、市民の多様な声を聞いていただくとともに、基幹交通の鉄道、バス、地域内移動のデマンドタクシー、福祉交通など、その他の移動手段に加え、新たな交通サービスの提案もお願いしたいと思っております。

また公共交通全体のバランスを考慮した全体最適による維持、継続的な運行ができるようにご配慮をお願いしたいと思います。

私も、月に 1 回のノーマイカーデーの日だけですが、公共交通で出勤しています。

石生駅からのバスが大変便利になりまして、うちもバスを何台も貸与して、協力はしていますが、それにしても私一番よい光景だったのが先ほども東京行ってたということ言いましたが、東京では、バスがすれ違うのは当たり前前の光景でした。ところが、丹波市ではバスがすれ違う光景はあまりなかったです。ところが、今は石生駅から市役所へ着くまでに 2 回ほどすれ違います。これは公共交通ができよるなというふうに、大変うれしく思ってます。

バスを中心とした公共交通をしっかりと進めていって、さきほどもありましたけども、高齢者の足とか、そういうところをしっかりと守るためにも、公共交通にしっかりと力を入れていきたいと思っております。

■市回答/ふるさと創造部長 清水

ふるさと創造部の清水でございます。特にまちの姿と移動手段、公共交通というのは切っても切り離せないと思っています。その上で気づいてることが 3 点ございます。

まず 1 点目は、移動支援というふうなもの、これはこれからも必要なというふうに思っております。

それから 2 点目は、支援だけではなくて、先ほど井口さんの話もあったように、例えばアシスト自転車でありますとか、そういうやはり自分の力で移動する手段、こういうなものをきちんと作っていく必要があるのかなと思っております。

最後に、その手段と支援、この両方を新しく作り上げていくためには ICT などを活用した、新しい公共交通サービス、こういうものをこれからどんどん作っていかねければ、どんどん人口が減っていく中山間地域の公共交通というのは、維持できないというふうに思っています。こういうふうな視点も一緒になって、また新しい公共交通計画を、よろしくお願ひしたいと思っています。

■ 丹波市商工会女性部 藤井さん

提案というよりも、丹波市商工会女性部の今年度の取り組みについて、商工の立場から3つ、発表いたします。

1つ目は今年も主たる事業として、丹波市地域再発見を行う計画です。

商工会に所属していても、自分の住むまちにどのような事業所があるのか、ほとんど知らないのが現状です。

まず、自分たちが地域の事業所や地域の魅力ある場所を知ること、お客様や取り組み、取引先にも、話することができ丹波市をPRすることもできます。

地域を知る事で、地域を愛することに繋がる、それが地域振興やまちづくりに繋がるのではないかと考えており合併以来、この事業を続けています。

進学により、都市部に行かれた方が、丹波市で就職し、帰ってきてもらうためには、小、中、高のころから、地域の企業について知る機会を多く持っていただけるのではないのでしょうか。

私たちも、地域材発見に参加して初めて、丹波市の企業、観光地を知ることができました。

私は山南に住んでおりますので、青垣や市島方面に行くことはほとんどございません。

そこで初めていろんな企業さんを知ることができました。これぞまさに地域再発見です。

しかし、まだまだ知らないところがたくさんあると思います。

昨年、この市政広聴会で地域再発見の取り組みについて発表した際に、「学生さんも一緒に参加する計画もどうだ」という意見もいただきました。私自身は大変良いことだと考えております。

そしてもう一つは、本年度から、商工会女性部では、女性ならではの経営による経営力向上にも目を向けていきたいと考えています。

女性ならではの視点で経営を考え、それぞれの事業の向上を目指す。

特に、最近の商品を支持されているサービスの多くが女性目線で開発されているものが多くあります。

女性部員の多くが経営者、もしくは経営者の奥様という立場から、事業に参加される方も多くおられます。女性ならではの目線を加えることで、経営の向上につなげていきたいと考えています。

一社でも、丹波市の事業所の経営力の向上が図れることで、地域経済の活性化や雇用創出などにつながり、1人でも多くの人が丹波に帰っていただけるように頑張りたいと思っております。

本年度は女性部も支部制をなくし、一本化しより強固なものに向けて今までの女性部を見直すために、それに向かってやっていきたいと考えています。

おばあちゃんパワーで商売を盛り上げていきたいと思っております。

■市長回答

地域のことはよくご存知だと思いますが、今のお話の中で、地域を愛することに繋がり、地域振興やまちづくりに繋がるというご意見は、まさにその通りだと思います。先ほども申し上げましたが、私も地元で地域づくりやってきましたので、それは本当に大事なことだと思っています。

長年そういうことでまた、女性部で取り組んでいただいております、この息の長い取り組みが文化になれば、うれしい限りだと思っております。

また、女性が集まるところには男性が集まると思っています。女性ならではの経営力向上というような考え方や女性目線の視点は本当に大事だというふうに思います。

藤井さんはじめ多くの女性経営者のご意見を伺いたいと思いますので、またお仲間お誘い合わせ、市長室の方へ一度来ていただいてですね、いろいろお声を聞かしていただければありがたいかと思います。

それから私も市長になってから企業の視察に行くようになりまして、会社がそこにあるのは知ってものの、どんなことをしているのかについては、はっきり知らなかったんですけども、本当に視察に行かしていただくと、「私は氷上高校出て 3 年目です」「柏原高校出て 2 年目です」とかいうと本当に地元の高校を出てその地元の会社に就職している子は必ずおります。

また会社の方も私が行くので、地元の子を出してくるんでしょうけど、職員の代表でね、そうになると、やっぱり地元で活躍する職員さん、結構居るんだなというふうに思っています。ですから、今おっしゃった中学生、高校生でこんな会社があるよとね。市島行った時なんかでも、日本のシェアの 80% うち持ってますっていうような会社もありますのでね。そういうところもしつかりと紹介して、産業経済部の方で作っている冊子もあるんですいろんな地元の企業のね、そういうところも、来年からネットでそれを流すようなことを今考えてますので、今までは本を、高校生には配ってたんですけども、それをネットでみんなが見られるように今考えてますので、そういうところからも、地元企業紹介をしつかりやっていきたいと思っています。

■市回答/産業経済部長 岡林

提案の中にありました市民も地元企業を知るっていうこと本当に大切だというふうに我々も考えております。

特に、高校生中学生そして小学生のころから丹波市にはどんなすばらしい企業があるのかというところはしっかりと、我々も伝えていかなければならないというようなところなんです。今年、残念ながらコロナで中止になってしまいましたが、初めて小学生を対象とした市内企業のバスツアーを計画をしました。

市内の企業4社ほどを小学生が訪問させていただくというような企画をしていました。すごく好評で申し込みが100名を超えるような募集がありました。残念ながら、中止にはなりましたが、来年度同じような形で、小学生にも、丹波市の企業を紹介していきたいというふうに考えています。

それから女性経営者の方々のご意見や経営目線の大切さについても十分理解しております。例えば起業ですね商工会さんをお願いして起業塾をしていただいておりますけれども、毎回、20人前後の受講生がいます。今年だと半分ほど女性の方が、起業に頑張りたいというようなところで受講もされています。そういった方々がですね本当に丹波で、起業し、しっかりと根づいて事業に取り組んでいただければ、ますます丹波も活気づくのではないかというふうに思いますので、またいろいろとご指導よろしく願いいたします。

■ 丹波商工会青年部 吉竹さん

3点ほど質問をいたします。

1点目は丹波市の過疎地域に青垣と山南が指定されました。それに伴い過疎地域持続的発展計画を拝見はさせていただきました。令和3年から令和7年、五カ年計画を立てられています。ここに至った過程であったりとか、ここに対する対策っていう部分を持ってるんですけど、具体的な計画の部分が構ざっくりしてる中で、どういうふうにこの5カ年を計画、具体的に行動していくことによって、目標に達成できるのか、目標設定の部分であったり、ここに行くまでのプロセスっていうところを、市としてはどういうふうに、5年間過ごしていくように考えておられるのかなあというところが気になりました。

次に**2点目**です。我々事業所としても、生産性を上げたり、労働環境整えることは、すごく必要なことであって、今の国のGDPと丹波市のGDPを比較したところ、結構似たようなものになってましたので、市のGDP上げるために、市としてどういう取り組みをされていくのかなと気になっています。

3点目は先ほど井口さんも言われたように、この地域に住んでる人の満足度が上がらないと、あんまり人に対しての魅力を伝えていくっていうことは、本当にできなくなってしまうと思いますので、それは我々事業者ももちろん努力していくことですし、市として、そしてそれが県であったり、地域になってそれが国へ波及していくのかなと思いますので、そういった中で丹波市としての取り組みを教えていただけたらなと思います。

4点目は、日本の国土の大半が森林の中で、多くの都市は、丹波市と同じ様な田舎と言われる地域になってると思います。その中で、山が綺麗であったり、空が近いとか、空気がおいしいっていうのってどこにでもある話だと思ってて、それを発信しても、あそこにもあるじゃない、ここもあるよねっていうふうになってくと思うので、丹波市としてもそうですし市長としてどういったところがほかの市と違う魅力発信していくのか。

特に丹波篠山ですよね丹波篠山のお隣でほんとに、特産物とかも似通ってる部分があったり、してる中で観光客数であったり、それと丹波市との差ですよね。

その部分をどのように、今後改善や強化され、より良い丹波市に観光客がより訪れるであつたりとか、地域としてより注目されるような市になっていくのかっていうふうな事をどう考えておられるのかを聞きたいです。

■市長回答

まず最初に過疎計画についてです。

丹波市では最上位計画というのが総合計画にあります。その中で、長期的な視野に立っているんな分野別に施策を書いています。過疎計画はその地域版と考えてください。

全部実施するというのではなく、こういうことができるんじゃないかということ、ずっと計画として書いてますので、これから人口減少の解消や、若返り、これを目標としてやるんですけども、これは国の財政の応援ですけども、あんまり全部が全部 100%見てくれるんじゃないくて、丹波市も、自分の財布からは3割ぐらいお金出さんなんていうやつですので、その辺も含めてしっかりと考えていきたいなど。

それから、丹波市の GDP を押し上げるこれ大変難しいですね。私も商売していましたので、なかなかこれも難しい話ですけど、僕はやっぱり人やと思います。人はやっぱり自分で動かないと。例えば、吉竹さんは商工会の青年部をされています。もうまさに申し上げたのがよくご存知だと思いますけども、商売をやっていくためには、地域もだが、人が居ないととにかくできないので、これをどうしてやっていくかということは大変難しいけどもやっぱり商売人が頑張らなきゃねと、僕もずっと商売頑張って、親父から受け継いだ時から6倍ぐらいに年商を上げましたので、そうやって頑張ってくれることが本当に底上げになっていくというふうに思います。市としてはそれを応援していくという格好になるんじゃないかなと。

ただし、こういう方向がいいですよというアドバルーンを上げるのはまたこれも市が考えていかなきゃいけないことかなと思います。

私が最近期待しているのは県民局が実施しているシリ丹波レーです。

初めは夢みたいな話かなと思ってましたが、関西の経済団体が後押しするということを発表していましたので、これは実現できるんじゃないかなと私も今、県民局長と調整しています。

一緒に丹波市も協力しますよっていうことを言ってますので、何とか物にしたいと思ってます。

また、丹波市といえば、黒井城。これもローカルといえばローカルですが、NHKの春日の局とか、本当は麒麟がくるがもうちょっと来る予定だったけど、コロナでちょっと半分になってしまったので、もう再爆発はしませんでしたが、春日局の時は本当すごいたくさんバスが来て、黒井の町は渋滞しました。

本当にNHKのドラマがすごい宣伝になります。「麒麟が来る」は少し残念でしたが、今度の鎌倉殿の13人にも足立遠元という、そのあと、孫が青垣地域の佐治へ行って、青垣で足立がいっぱい増えた原因という、そういう人がこの9月3日に来るんですけども、そういうこともちょっときっかけになるかもしれませんが丹波市全体で言うのはなかなか難しいなと思います。

商工会の青年部が実施するゴーゴーフエスタや青年会議所がやってるスプラッシュ丹波。

これらは、まだ3回4回5回くらいしかやってないのに、あっという間に丹波市を代表するということで、あちこちで紹介してもらってます。ですから新しいものを若い人たちが作っていくことが大事だと思います。丹波市全体のイベントは今までなかったですからね。

今、僕は丹波市の若い職員とお弁当と一緒に食べようということを実施しています。来てくれる若手職員に少し話を聞いていると、旧町意識というのは、今これを部長連中は持ってます。青垣出身や氷上出身やいうのを持ってます。ところが、今の若い子丹波市になってから丹波市役所に入ってきてくれた子は、案外旧町意識がないですね。これははすごく大事なことで、これから丹波市の何かイベントはできてくるのはこの子らが偉いさんになったとき、課長ぐらいになったときかなというふうに思ってます。僕でももうこの部長の顔見たらこの子は青垣出身やとかね、わかってしまう僕もちょっと辛いんですけども、それが実際なんですね。ところが、若い子たちはもう、どこのかわからへんで、丹波市として見てますね。話をしているとひしひしと感じます。ですから吉竹さんも、どちらかというと丹波市になってからの人材やと思います。やっぱりそういう人たちがこれから丹波市をつくっていくんだろうなというふうに思います。丹波市のごっついイベントをぜひ作って欲しいと思います。ぜひ期待しております。

■ 丹波市立北小学校 黒田さん

特に提案ということではありませんが、せっかくの機会なので、学校が帰ってこいよ政策に似たようなことで取り組んでいることや、学校の今の様子について伝える機会にしたいと思っています。

今コロナの第7波が、とてもすごい状況で、日々、心配なことばかりです。

マスクの話が出ていまして、やっぱり熱中症と運動会の練習に向けての熱中症対策と、どちらをとればいいのかについて日々悩んでいるところです。

6月に一気に暑くなったときには、本校は、通学距離がとても長いため、子どもたちの登下校の道のりを考えると、体長管理が心配なのでマスクは取るように指導しました。ただ、取るだけではなくて、取ったからには、ちゃんとしゃべらずにディスタンス保って、そして帰りなさいというふうに指導しています。子どもたちは感染対策を一生懸命頑張っています。何か人としての大事な部分が抜けないように、また健康で過ごせるようにと思って、日々悩みながら進めています。

今回、住みたい、帰りたいと思える丹波市となるようにってということで、小学校教育の分野でも日々それは同じ方向で考えて取り組んでいます。

とにかく、今、小学校の子供たちを育てていくのに、教育はすごく大事だということをすごく日々感じています。地域とともにある学校づくりというのが、やっぱり主になっています。

地域のことが大好きな子どもたちを育てる、地域のことを誇りに思えるような子どもたちを育てること、それが私たちの役目だと思っています。

そのためには、地域の人、モノ、コトっていうものを体験し、地域と繋がり、自分も学校も、そして地域も大好きな子供たちを育てたいっていう思いで取り組んでいます。

市内の小学校には、すべての学校に学校運営協議会が設置され、地域と一緒に学校運営をしています。

本校も、3年前に設置しました。地域も学校も元気になるような取り組みっていうものを合言葉に、地域の方に講師に来てもらったり、それから、授業補助や、それから新一年生が学校生活に慣れていくためのサポートも地域の人に来てもらったり、毎朝来てもらって、一緒に慣れるようにしてもらったりとか、本当に地域の方には、いっぱい学校の中にも入ってきてもらっています。

反対に、地域の行事にも積極的に子供たちが参加できるような声かけや先生たちも、時間があればいっぱい、参加できるようにっていうことで、声かけしています。

地域の方と学校で触れ合うことについて子供たちにアンケートをとると、ゲストティーチャーを迎えてする授業がすごく楽しいというふうに、地域のことが本当に好きで、その人との触れ合いを楽しんでいる子供たちがすごくたくさん増えています。

これは将来的に、丹波市を離れたとしても、また地域に戻ってこようとか、この地域を助けたっていう、そういう思いの子どもたちになると思って、そういうことを教育の中で、どんどん進めていっているところです。

今回、二つ提案したいなと思っているのは、

一つ目は、その地域の行事とヒトモノコトの「コト」なんですけれども、そんな行事が何かコロナでなくなったり、夏祭りでも花火が上がらなくなったりとか、何かそういう心に残っていく行事がやっぱり減ったりなくなったりしていることがすごく残念です。

人材不足なのか資金不足なのか、そこら辺は私たちにはわかりませんが、「夏にこうしていつも花見していたな」とか、「何かいつもこれがあったから楽しめたな」という、心の中に残る思い出づくりの一つとして、そういう地域の行事を復活させたり、グレードアップを、私も一緒に協力して進めたいと思っています。

それから、二つ目は丹波市の魅力を様々な方法で発信することって大事やなあと。

さきほど、井口さんも言われたように、やっぱりその中の人が幸せに暮らせないといけないっていうことは言われたんですけど私もそうやと思うんです。

それを、以前、フォーチュンクッキーとかなんか丹波市みんなで取り組んだような事業があったので、何か市民がワクワクやドキドキするような新しい事業をできないかなと、何か中の人たちが面白いなってみてみたいなって思えるような、そういう授業をこうやっていくことで、「丹波市って面白そうやぞ」とか、「こんなんができそうだ」というのを思ってもら。それがまた子供たちにも良い影響与えるんじゃないかなと思うので、今回その二つですけれども、提案したいと思います。

■市長回答

昨日も休みでしたけども、教育長と、感染の者の人数の一覧表を見ながら、ちょっと心配していたところです。

黒田さんがおっしゃる通り、夏祭りやイベント、祭りをやりましょうということで、5月の連休明けからどんな会場行ってもずっと言ってたんですけども、第7波がポッと出て、デカンショ祭りが中止ということになって、いっぺんに各地域の祭りやイベントが中止、縮小になっています。

私は何とかこれをやらないと、祭りイベントをやる方の人材も、3年ほど休むと、なかなか次、腰が上がらないということになるので、昔ああやって神輿乗ったなというのが大事なことだと思うので、ぜひ続けて欲しいということで発信はしています。

地域愛というのは、そういうことがあってうちの子供たちでちょっと通学路長かったんですけども、丹波市ではみんな「お帰り」「帰りました」と小学生が言って歩く大変良い習慣があります。子どもは「あんた林さんこの子やろ言われた。」と。「なんでやろう」言うたら、

「顔が似ているからだ」というような話もしたことがあります。そういうところが本当に郷土愛の始まりで、やっぱり近所の人が知ってるよというのが大事なことやと思いますので、郷土愛のことについてはぜひ、小学校でも頑張ってやっていただきたいというふうに思います。

それから、丹波の魅力を発信するということのご提案については、先ほどうちの部長も言っていました、丹波市は少し下手やと。発信が下手だと、同じことをしていても、あんまり知られへんというようなことを言ってます。なんとか頑張って発信力を上げようということで、今度ホームページもリニューアルします。また黒田さんの方からも、斬新な魅力発信のイメージとかありましたら、ぜひお伝え願いたいと思います。

■ 一般応募 笛木さん

私は普段は丹波篠山市役所の職員として、社会教育、生涯学習の関係の仕事をしています。令和5年度の二十歳のつどいの実行委員としても活動しています。

私からは、丹波市ふるさと就職奨励金、丹波市若者定住奨励金について、少し意見をさせていただきます。

これらの事業は、丹波市のテーマである、帰ってこいよの場が広がり、その帰ろうの希望がかなうまちづくりに沿ったよい事業だと思います。しかし、地元で働いてくれた、住んでくれたからお金を出すというだけの、お金配り事業になっているというように私は感じています。

助成金を受け取る人からすれば、お金が貰えることはありがたいし、市としても、地元で働き、住んでもらえたことに対する、お礼報酬みたいな要素としてこの事業をされているかと思います。ただ、働いてもらう、住んでもらうというだけではなくて、これからも働き続け、住み続けてもらうというような、次のステップを考えるのであれば、ただ、お金を渡すだけの、その場限りの支援だけではなく、継続性のある支援を行う必要があるのではないかと思います。

例えば、家賃補助や、近隣施設の優待券みたいなものでも良いかと思います。

お金を渡すことと同義にはなりますが、継続性のある支援、地域の活性化やふるさと意識の醸成という意味では、これらも良いと思います。

今、このふるさと就職奨励金、若者定住奨励金がどれほど活用されているのか、どのような予

算編成をされているのかは存じ上げませんが、もし、余裕があるのであれば、何か有効活用できればと思っております。その場限りの支援ではなく、若者たちの丹波市での未来、先を見据えた支援をご検討のほどよろしくお願いいたします。

■市長回答

今、率直な意見を伺いました。言ってみればそういうことになります。

例えば国でも、10万円配りますとか、困った人に5万円配ります。そういう話になります。なかなか、さあ事業というと笛木さんもこれからいろんな事業を考えていくんだろうけど、やっぱり、困った人に渡します、必要な人に渡しますっていうのは一つの基本なので、なかなか難しいところがあります。

私の思いとしては、一時金というよりも、丹波市は就職奨励金もやっていますし、定住奨励金もやってます。

子育て応援するハッピーバース手当。若い人たちのライフイベントのたびに、就職、家賃補助をやっていますよ。それから、子どもが生まれたとき、第二子、第三子が生まれたとき、そういうライフイベントのたびに、子育てを応援していく。それと認定子供園は、うちは13の認定子ども園を運営していますが、本当に手厚い授業をやっています。これは子育てのために、やっぱり子育て世代が良くなるのは先ほど笛木さん言ったように、ただお金配るだけじゃ駄目ですよという話の中で、子育て世代が困る一番最初に認定子ども園に入れる、その認定子供園がもう困ってたらしょうがない。認定子供園はしっかり子供たちを、保育また幼児教育もできるように、しっかりとした、支援を認定子供園にしています。ですから、丹波市の認定こども園は、施設も新しいところがほとんどで、しっかりとしたことをやっています。それが子育てのことじゃないかなと私は思っています。他の市では、給食とか、個性はいろいろありますけどね。うちは認定こども園にしっかり補助して、子供たちの居場所づくりをやっているというふうに思っています。

継続した支援が大事と言われた通り、市では、丹波市を選び、住み続けていただけるように、ずっと応援していきましょと。切れ目のない支援をしていこうと考えてます。

■市回答/健康部子育て担当部長 徳岡

先ほど市長からもございましたように、市では、様々な子育て支援の策を講じています。

丹波市の子育てに対する支援が、十分でないとか、弱いんじゃないかというようなこともいろいろとご意見をいただく場面もありますけれども、かなり関係する部署を市役所の子育て部局だけではなくて、本日参加している教育部や産業経済部など、庁内各部署にまたがって、一緒に取り組む、部局横断的に連携をしながら様々な事業を行っているというところです。

いろんな奨励金、一時的なお金を、交付する。それだけで、子育て施策として充実するのかもしれないとそうではありません。

切れ目なく、お子さんが生まれる前の段階から、成長をされていって、中学高校そして、大学、

あるいは就職という、それぞれの段階に応じた支援を切れ目なく行っていく。

他の自治体と横並びに見たときに、決して丹波市の子育て支援施策っていうのは、遅れをとっているものではないと、私たちはそう思ってるんですが、ちょっと、弱いなというのが、そういった施策の、情報発信の仕方や周知ですね。そういうところをさらに強化し、必要な情報を、それぞれの方にお届けできるようなことをさらに充実させたいと考えています。また、有効な手段等ありましたら、ご教示いただきたいなと思います。

■市回答/ふるさと創造部長 清水

丹波市で住んでいただく中でお金も大事ですが、人との繋がりというところが一番大事なのではないかと思います。

ご指摘いただいている皆さんが、ふるさと丹波が自慢できる誇りを持って皆さんにお話ができる、そういうところが、住み続けられるまちじゃないかなと、お話があったと思います。

当然、お金を出す支援補助制度というのは、たくさんありますが、特に井口さんところ作っていただいている、「丹波ライフ」という冊子がございます。

市役所にも置いてありますので、ぜひ手に取っていただきたいと思います。この冊子には、補助金のことだけでなく、丹波市での暮らし方や丹波市に移住されてきた方々の感想が載っています。移住はライフイベントの一番大きなところですよ。そういう意味で、覚悟を持って、移住される方をきっちりと丹波市でもお迎えしなければいけないと思っております。そういう支援というの、書いていますので、また見ていただきたいと思います。

■一般応募 松代さん

提案というよりは、ご意見という形で受け取っていただければと思います。

私は丹波市の観光のPRが、ちょっと弱いのではないかなという観点でお話をしたいと思います。まず、丹波篠山市で働いていてわかったことが、丹波篠山市はPRがうまいと思っています。例えば、黒豆ナイターという事業があります。これは球場のバックスクリーンに丹波篠山市のPR動画を流してもらったり、テレビでも丹波篠山市が取り上げたコーナー流してもらったりしています。ですが丹波市では、自分が知らないだけなのかもしれないですが、そういう活動がちょっと見受けられないです。

2つ目は特産品についてです。「丹波の黒大豆」や「丹波の栗」とかがあるんですけど、丹波という名前が入ってるにもかかわらず、どちらかというと丹波篠山市の方のイメージになるところが多いと思うんです。丹波といえば、これっていうものを実際にこう、市外に発信できたらいいのではないかなと思います。

■市長回答

丹波市は丹波三宝といいまして、大納言小豆、栗、黒枝豆の3つで、丹波三宝ということで、宣伝はしていますが、確かに丹波篠山市さんのイメージもあり、なかなか難しい。

東京の人はね、昔の人は、丹波篠山やまがのさるがというデカンショ節がね、東京の学生の間で一時流行ったんです。

昔、デカルト、カント、ショーペンハウエルという、君らはもう知らないかもしれないけど、哲学者3人の名前が入ってるということでデカンショ節というのは東京の学者の間で、一躍有名だったんです。

そんな中で、丹波といえば篠山っていうのは確かに直結してるところもあります。丹波というのは大きな地域の名称なので、結構丹波っていうのも、発信はできてるといふふうに思います。ただ、発信が下手だなというのは、私たちも自覚しています。何とかそこら辺の発信を上手くしていきたいなと思っています。

■市回答/産業経済部長 岡林

丹波市は農産物が有名です。栗もあれば、大豆、小豆もありますし、有機野菜も、丹波市は古くから手がけ、市外でも人気の高い農産物として位置付けられています。

また市長イチ押ししている黒井城、女子校野球は去年から甲子園で決勝大会をしておりますが、参加チームも増え、丹波市への注目度が上がっています。

あと、丹波竜は丹波市唯一無二の、地域資源というところで、こういった丹波市の魅力ある商品、地域資源を、もっと観光面として市外に売り出していかなければならないというところは、常に意識をしているところです。それを今も、どうすれば、効果的に発信できるかというようなところを考えています。

ちなみに皆さんご存知かもしれませんが丹波おばちゃんの里という道の駅がありますね。

この3月にリニューアルをして、売り場面積を倍にして、丹波の特産品や農産物、加工品を売っているところがありますが、多くの方がリニューアル以前よりもたくさんの方に立ち寄っていただいて、丹波市のものを買っていただく、また丹波市に立ち寄っていただくというような、そんな状況になっております。そこに観光情報センターというのも新設をしております。

物を買っていただいたついでに豊岡自動車を降りたすぐところにありますので、非常に立地はいいのかなというところで、おばあちゃんの里に寄っていただいたお客さんが情報センターに寄っていただいて、丹波市の情報を得て、丹波市を周遊していただけるというような、そんな仕組みを作っていきたいなというふうに思っております

■市回答/ふるさと創造部長 清水

広報が下手というよりも、丹波篠山市さんも丹波市のほぼ同じコンテンツを使ってると思うんです。何が違うかというと、やはりキャッチフレーズなどの使い方っていうのが丹波篠山市さんは非常にうまいなと感じています。例えば世間遺産というのを今丹波篠山市さん使っておりますよね。これ世界遺産になぞってつけられてると思いますが、エッジが効いた見せ方っていうのをされているなと思ってます。この辺は普段からいろんな情報を常に意識して集めているというところが感じます。我々も職員力を磨き、どんどん考えていかなければならないと思

っています。

一方で、行政職員だけでは気づかないところもたくさんあります。

そういう意味では今日お越しの皆さん方でも、こんなキャッチフレーズ面白いねっていうふうなことがあれば、ぜひご提案をいただきたいと思っています。

毎年、施政方針の中で大きな柱のキャッチフレーズをつけて作っていますが、そういうキャッチフレーズにしても、ご提案をいただければ、参考にしたいと思ってます。

■市回答/建設部長 里

公務員は無難な仕事をしているという意見がありました。有難な仕事もできるように今後取り組んでいき、市民の皆さまから「ありがとう」と言っていたけような仕事ができるように頑張りたいと思います。